

新たに播磨町指定文化財として3件を指定

問合せ 郷土資料館 ☎ 079 (435) 5000

令和3年1月27日に指定された文化財は、いずれも郷土の偉人「梅谷七右衛門清政」ゆかりの文化財です。

梅谷七右衛門清政とは

梅谷七右衛門清政は、天和3（1683）年東本庄村の庄屋の家に生まれました。そして、18歳の若さで庄屋を継ぎましたが、その当時村は決して豊かではありませんでした。打開策として新田開発を志し、その成功によって村の困窮を救うこととなります。その後魚問屋を開業して財を成し、その財を活用して地域の神社や寺を立て直し、感謝されています。意外に質素な暮らしぶりの中で地域には惜しみなく金銀を使い、困った人にはできる限りの世話をしました。



『愚胸記』（『當家立身巻』）（1732年）

梅谷七右衛門清政が享保17（1732）年に書き遺した『愚胸記』は当時の村の有様や生活の様子をうかがい知ることのできる文献のひとつです。その中には、著者七右衛門の人生哲学、篤い信仰心に支えられた日常生活と家族への思いがつつられています。また、七右衛門の「苦労人庄屋」としての人間像についても知ることができる歴史資料です。



三界萬靈地蔵尊（1743年）

三界萬靈地蔵尊は、無量壽院境内に建立されています。寛保3（1743）年に梅谷七右衛門清政が、亡き妻の追善供養のために建立したものです。七右衛門が妻の死を悼み、死後の冥福を祈って造った大きな石仏は、270年有余の歳月を経て今なお野添の無量壽院にあり、夫婦の絆を今に伝えています。



魚介類供養塔（1750年）

梅谷七右衛門清政が建立した魚介類供養塔は、本荘中公会堂を左に入った隣家との塀際に位置しています。高さ325cm、笠の隅飾が開いた江戸中期の様式の堂々とした宝篋印塔です。この塔では、塔身に一字金輪仏頂をあらわす梵字を刻み、基壇に「妙経一字一石納経中」「魚類成仏の塔」「寛延三庚午卯月吉祥日」「施主問屋梅谷」とあります。扱ってきた魚介類に感謝し、すべての魚介類の魂が成仏するようにとの気持ちがこめられています。

町の人口 3月1日現在

住民基本台帳人口（ ）は前月比

34,728人(+24人)

男…16,951人(±0人)

世帯数…15,245世帯(+18世帯)

女…17,777人(+24人)